



No. 31

1992年上期までの話題(1)

1991年6月から継続している雲仙火山の「1991年噴火」に関する緊急特別展示も1年半を越え、この間、多くの来館者の関心を集めてきました。長崎県島原地方では1992年10月になって立入禁止区域の規制緩和が発表されましたが、本当に1日も早い火山活動の鎮静化を願うばかりです。

ここでは1991年度下期から1992年度上期の活動の中から上記の展示のほかの主なものを2回に分けてお知らせします。

1. 科学技術週間特別展示(1992年4月13日～4月19日)

1) 「新しい日本列島のすがた」—100万分の1日本地質図第3版—

2) 「コンピューターグラフィクスで見る日本列島の地質から惑星の素顔まで」

地質部と地質情報センター(情報解析課)のご協力によりわが国全体の最新の地質情報を総括的かつ立体的にとらえることができるようにしました(写真

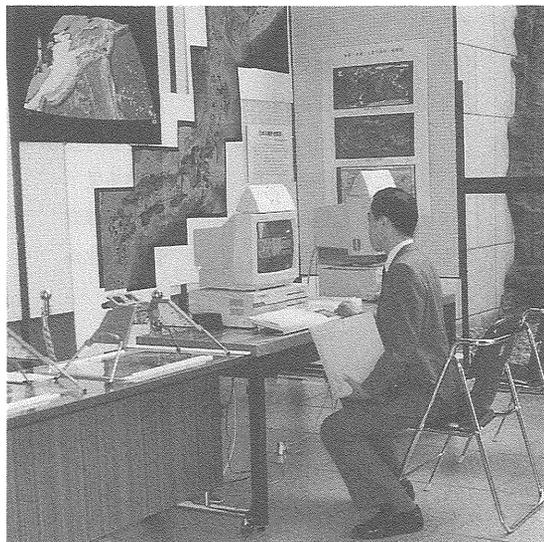


写真1 科学技術週間特別展示(1992年4月13日～19日)

1). 立体鏡やパソコンを使用した展示はゲーム感覚で体験できるため大人から子供まで好評でした。なお、科学技術週間での見学者は1,291人でした。この特別展示は科学技術週間終了後も7月末日まで継続しました。

2. 夏休み企画展

1) 「顕微鏡でのぞく岩石の世界」(8月3日～8月7日)

2) 「地質調査研究を支える試作機器の展示」(同) 地質調査所の研究を進める上で非常に重要であるがほとんど表にでない支援業務に携わる地質標本館試料調製課の仕事を一般の方々にも理解していただく今回初めて企画しました。日頃お世話になっている試料調製課に所内の研究者が全面的に協力して進められました。期間中は薄片作成の実演もあり、学校関係者はもちろん、一般の入館者も硬い岩石が薄い紙状にされ、光に透けて見えるようになるように驚きいって見学していました(写真2)。また、いろいろな試作機器に対する質問もあり、特に地震計モニターでは机を揺らす“人工地震”をおこして感度を確かめるなど好評でした。期間中、岩石薄片作成に使用した岩石チップ400個を用意し、入館者の方々にプレゼントしました。ふだん一般入館者と接する機会の少なかった試料調製課員は初めての試みにかなりお疲れのようでした。公開実演中717人の入館者がありました。なお、実演の様子は東京新聞(8月4日付け)ほかに掲載されました。展示は9月末日まで継続しました。

3) 「化石クリーニングを体験する」(8月10日～

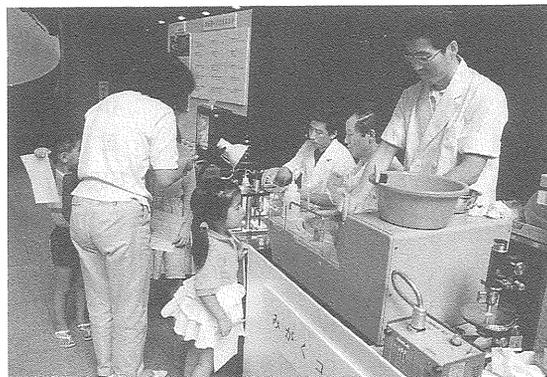


写真2 夏休み企画展「顕微鏡でのぞく岩石の世界」での1こま。試料調製課の佐藤(中央)・野神(右)・大和田(左)技官による薄片作成の実演に見入る子供たち。

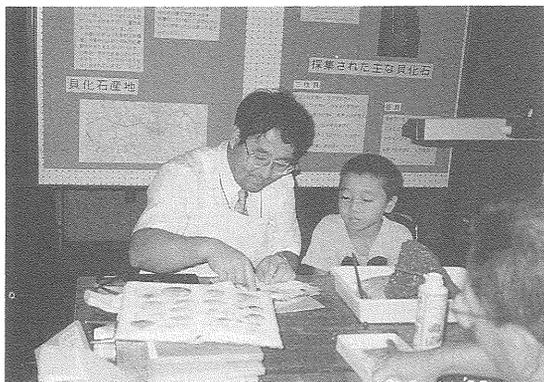


写真3 夏休み企画展「化石クリーニングを体験する」での1こま。15万年前の貝の種類などの説明を受ける子供。

8月14日)

昨年、夏休み特別企画の一環として「化石クリーニング体験コーナー」を設けましたところ大好評でしたので今年も企画してみました。今年のテーマは栃木県塩原町産の30万年前の植物化石と茨城県土浦市産の15万年前の貝化石です(写真3)。昨年と同様好評で、中には毎日開館と同時にやってくる小学生もいました。自分で取り出した化石を持ち帰ることができるようにしましたので皆さん真剣に取り組んでいました。期間中の入館者は1,059人でした。

### 3. 岩石・鉱物・化石に関する子供相談日(8月11日)

例年8月の下旬に企画していましたが、今年はこの時期に第29回万国地質学会議が開かれるため、少し早めに相談日を設けました。このため、相談者の数は例年の半分ほどにとどまりました。

### 4. IGC 科学展示会

8月24日～9月3日に京都国際会議場で開催された第29回万国地質学会議(IGC)では地質標本館が中心となって地質調査所の科学展示会ワーキンググループを組織し、所内外の皆様のご支援を得て、当所の概要と研究内容の紹介を主目的とした展示を遂行する事ができました。この展示に関しては国内外の研究者にも比較的良好な評価を受けたものと自負しております。IGC 科学展示会にご協力いただきました方々に改めてお礼申し上げます。

館外活動として7月25日「花室川で象を探す観察会」(学園都市の自然と親しむ会主催、講師：地質標準課佐藤主研)が催されました。この企画はこの時期の恒例行事として定着しており、今回もつくば市近辺の小中学生を中心に100名以上が参加しました。昨年に続きナウマンゾウの牙や臼歯の化石計8点、針葉樹の球果等の植物化石多数を採集することができました。ナウマンゾウに関する標本は全て地質標本館に寄贈していただきました。採集者の方々にお礼申し上げます。

近年継続している地質標本館の展示改装として第4分類展示室入口左のカラーコルトンと第2展示室の鉱床成因図に着手しました。特に第4展示室の大きなカラーコルトンは上下2つに分割し、上に標本の写真を、下に標本を置けるようにしています。ともに国内でとれたきれいな標本の紹介を目的としています。所内外を問わず、きれいな展示用標本をお持ちの方はご一報いただければ幸いです。ただし、展示いたしました場合には、いずれ登録させていただきますこととなります。

第2展示室の金属・非金属鉱石コーナーの展示ケースを増設しました。これにともない、貴石・宝石ケースの一部をホールに移設しました。このほかにも設備の経年劣化がめだち始め、いろいろなものの修理を行っています。

官庁の週休2日制の導入に伴い(1992年5月2日)、地質標本館の開館日が月曜から金曜日までと変わりましたのでご注意ください。この実施と前後して土・日曜日開館の要望や問い合わせが多く寄せられています。なお、祝祭日、年末年始の閉館日の変更とあわせて、地質標本館の日本語パンフレットの内容も新たに地質年表や代表的な展示標本の写真をつけるなどして改訂しました。

〈以下6月号〉

登録標本最終番号(1992年9月30日現在)

岩石：R59925， 鉱物：M30224， 化石：F14397，  
試錐：B335， 鉱床：D66

(地質標本館 利光誠一・小沢泰子・豊 遙秋)